

も く じ

こうれん ふくい

わがまち自慢の風景
高浜町青郷地区……………1

公民館活動紹介「新しくなった公民館」
福井市和田公民館……………2
鯖江市鯖江公民館……………3

第 27 回福井県公民館前期セミナー……………4~5

こうれんトピックス……………6

わがまちの自慢の風景

青葉山のふもとの豊かな自然文化の環境（高浜町 青郷地区）



＜ オオキンレイカ ＞



＜ 青郷公民館からの青葉山 ＞

若狭富士ともいう青葉山には県指定の天然記念物のオオキンレイカがあります。地元住民、児童達と大学等との協力で絶滅の危機を回復させる為、種からの栽培で保護が進められていますし、二万年前の遺伝子を持った天然杉が発見され人々の注目を集めています。また青葉山の山頂から麓まで、古い史跡や寺社仏閣があり、多様な民俗文化も青郷地区の魅力です。



◀ 本年 5 月に青葉山ハーバルビレッジが開園しました。青葉山登山のビジターセンターのほかにカフェやハーブガーデン、キャンプサイト等を備えています。青葉山の植物等が身近に見られる、魅力の多い場所です。



▶ 青郷地区には明治時代に作られた舞鶴要塞の一部である、吉坂堡壘(通称:六路谷砲台跡)があります。近代の戦争遺跡ですが、最近国の調査も始まり、公民館でも、毎年現地に出かけています。



福井市和田公民館

住所 〒910-0854 福井市御幸4丁目9-20 TEL (0776) 22-0038

Q どんな地域ですか？

和田地区はJR福井駅の東南に位置し、地区のほぼ中央に国道8号線・158号線が縦・横に走っています。現在は住宅地、商業地として都市化が進み、地区の世帯数4,300、人口も1万1,000人を超えるマンモス地区になっています。

また福井市の防災センターや福井東消防署、済生会病院、嶋田病院、和田交番などの施設、そして和田地区の守神として和田八幡宮総社もあり、大変活気ある治安防災の拠点としても期待されています。地区民も「和田発展不巳」を合言葉に活気あるまちづくりに取り組んでいます。

Q 新しくなった公民館の特徴をおしえてください。

新公民館は福井警察署があった跡地に建設され、地区の中心部よりやや西の方になりましたが、交通の便も良くなり、外観は片屋根型で大変大きな建物となりました。玄関口横に設けた談話室は、地区の人達の語らいの場として大変好評を得ています。

Q 今イチオシの活動があればおしえてください。

地区の教育事業として和田大学、元気っ子クラブ等の事業がありますが、中でもイチオシなのは「はつらつ伝承塾」の教育事業でもある、「くちパク和いわい劇団」でしょう。今年で5回目の公演になりますが、毎年9月に行われる「敬老会・ふれあいまつり」で発表しています。地域における歴史や民話、方言といったものを題材に選び、地区の人々に紹介しています。

この劇団は一般的な劇のやり方ではなく、セリフをあらかじめそれぞれのキャストがテープに録音し、そのテープを流しながら、ややオーバーな身振り・手振りで演じています。また脚本作りからキャスト、スタッフまで全てが地区民手作りというのが特徴で、大人子ども合わせて総勢22名の劇団です。

Q 事業を進めるうえでどういったことを心がけていますか。

生涯学習を推進する施設として、地区の皆様が気軽に集える場所として、十分にその機能を発揮できるよう、また多いに活用していただけるよう心がけています。

広報紙委員の感想

人口が増加している地区とお聞きして、活気があり、明るい公民館だという印象を受けました。館長さんの地域を思う熱心さに感激し、「本当に和田地区がお好きなんだな。」と実感しました。地域づくりには、地域を思い続ける熱意が必要で、これが他の人にもつながって拡がっていくのだと、今更ながら納得でした。私たち広報委員がお邪魔している間にも、次々と地域の方々が事務所に入って来られ、公民館と地域のつながりの深さを感じる取材となりました。（訪問者：南部・直江・佐川・福井）



職員の皆さん(左から北島館長、高瀬主事、上野主事、川瀬主事、南部管理人)



昨年度の公演の様子



看板俳優陣&くちパク博士です！



スタッフの方々も協力的です。

おすすめスポット

和田八幡宮

959(天徳3)年に清和源氏の祖、源満仲が創建。守護職をしていた越前で洪水や疫病が起り、困り果てた満仲が霊夢の中で摂津(現大阪 住吉大社)から東北に矢を放ち、落ちた場所にお宮を建立したとされています。

江戸中期に作られたと見られるしゃく谷石製の太鼓橋(厄除橋)は県内随一の大きさで、福井市都市景観重要建造物に指定されています。





鯖江市鯖江公民館

住所 〒916-0027 鯖江市桜町1丁目1-16 TEL (0778) 51-3010

Q どんな地域ですか？

鯖江市の南に位置し、真宗誠照寺派本山誠照寺の寺町であり、江戸時代には、間部5万石の城下町として栄えた町です。現在は、世帯数約4,800、人口約13,000の歴史と文化の香りがする地域です。

Q 新しくなった公民館の特徴をおしえてください。

今年6月26日に50年前に市民会館として建設された公民館を改築し、落成式を迎えた新しい公民館です。

新しい公民館の目玉は、3階大ホールです。可動式の座席が153席と70余りの椅子が入ります。地域の文化活動の拠点として活用されることを期待しています。

またそれ以外にも、間部家の屋敷跡であったことから、外壁や内装にも工夫を凝らした建物になっています。

Q 今イチオシの活動があればおしえてください。

① 公民館学校の実施

鯖江市では、各公民館を拠点として、地域の人たちと小学生の交流を深めることを目的に通学合宿を実施しています。しかし鯖江地区では、惜陰・進徳の二つの小学校があり、4年生全員の参加は無理で、一部の子供たちの参加であるため、参加率も悪くなっていました。

そこで、夏休みに小学生を集め、学習や体験をした後は食事をして帰る、公民館学校を開校することにしました。今年是最初であり心配もありましたが、参加者から「よかった」の声を聞いて無事終えることができました。

② 育自楽習塾の開催

高齢者学級のネーミングを変えて実施しています。約60名が、講演を聴き、物を作り、体を動かし、野外見学に出かけたりと4月から11月までに公民館を中心に活動する学級です。

広報紙委員の感想

館長さんに気さくにに応じていただき、楽しく取材することができました。館内を案内していただくと、全体的に窓が大きいので、明るく開放的に感じられました。大ホールの移動観覧席は電動式で、収納、展開を操作することができます。実際に見せていただいたのですが、思わず「うらやましい」と言ってしまいました。また、旧館の巨大壁画を写したタペストリーと、アニメーション作家久里洋二さんの絵が飾られており、とても印象的でした。
(訪問者：南部・直江・佐川・福井)



ロビーを明るく飾る久里洋二さんの絵



3階大ホールの座席はスイッチ一つで操作可能です。



8月の公民館学校には95名の小学生が参加しました。



岸松館長も講師となって、子ども達と紙飛行機づくり！

おすすめスポット

西山公園

江戸時代に鯖江藩主 間部詮勝公が領民とともに開拓し、領民も楽しめる憩いの庭にされたといわれており、さくら・つつじ・もみじや動物園など市民の憩いの場所になっています。近くには、古墳群・祈りの道・すり鉢やいとで知られる中道院などがあります。

(写真は SABAE スノーフェスタ 2016 の様子)



第27回福井県公民館前期セミナー報告

地方創生における公民館の役割

平成28年7月7、8日 あわら市グランディア芳泉 参加者100名

今年度の前期セミナーでは、東京大学

大学院教育学研究科教授の牧野篤先生に2日間にわたってご講義いただき、人口減少・少子高齢化が問題とされる現在の日本においてなぜ地方創生が叫ばれるのか、またこのような流れの中で、これらの公民館が役割を果たすべき役割とは何かについて考えた。また鯖江市市民協働課JK課の高橋藤憲氏、ふくい市の担い手づくりプロジェクト（公社）福井青年会議所（の）後藤正邦氏のお二人にもそれぞれの実践についてご講演いただいた。



▶ 牧野先生

◇ 牧野先生講義より◇

講義1

社会をつくる
行政の「学び」化
— 地方創生と公民館1 —

劇作家平田オリザさんの言葉を借りれば、衰退期を迎えているまことに小さな私たちの国、日本。もはや工業国家ではない。経済の拡大成長も見込めない。今やアジア唯一の先進国でもない。こういった寂しさを受け入れながら、これからは新しい社会をどうつくっていくかを考えるければならないのではないかと

▽少子高齢・人口減少社会の何が問題か

高齢者、要介護者が増えること、労働力が減少すること、社会保障制度にお金がかかるなどが議論されがちであるが、過去の量的なモデルにしがみついていることこそが問題なのである。高齢化が

問題視されるあまり、今の若い人達は自分達の将来を悲観してしまっている。この現実の方が問題なのではないか。それよりも行政に頼るだけの社会のあり方や考え方を変えていく必要があるのではないかと

そこで大きなテーマとなってくるのが「ソーシャル(社会的)であること」と言えるだろう。国全体で出生数を30万人増やそうとすると、どうしていいかわからない。だが例えば人口1300人で、毎年子どもが10人生まれている町で、あと3人増やそうと考えるならば、具体的に手立てを考えることが見込めそうではないか。国家という単位で物を考えるのではなく、もう少し小さな単位のコミュニティ、地域社会を基本に考えていくことが重要なのではないかと

▽価値観の転換

工業社会から消費社会へと日本が転換を始めると、皆が同じ価値観を持って競争していた時代が終わり、価値観は多様化していった。しかし今度は比較優位の競争となつて異なる価値観同士がぶつ合いついてきた。それは社会的活力の低下につながってしまう。

そうではなくて、様々な価値を新しく

作り出し続けていくことで、その創意工夫を楽しみ、生き生きと自分達がこの社会に生きていけると思えるようにしていくことを考えるべきではないか。その意味でも社会基盤であるコミュニティを住民自身が経営することを目指していかなければならないだろう。住民が社会で活躍しお互いを認め合っていく。その中で自分の価値を見出していくことが実現できれば、国という単位で考えたときにも価値観豊かな国になつていくのではないかと

▽公民館の役割

人々が自分達でコミュニティを作り上げていく。自ら経営していくときの基盤となりうるのが公民館であり、それを支える職員の方々だと言えるだろう。

今年が公民館構想が出されてから70周年という年であるが、昭和21年に出された構想を見ると、公民館とは住民が新しい村や社会を作りそれを経営していくときの核になる存在だとされていたことがわかる。工業社会だった時代のニーズでまちづくりや経済を扱うことよりも文化教養を広めていくことが多くなつた公民館だが、本来はそれに加え生活の基盤である経済も取り扱う、または産業おこし、村おこしまで扱うべきものとしてあつた。

そのことが今、改めて再評価されているのである。

▽新しい専門職

またこれからの時代に必要なのはリーダーシップではなくてフロワーシップと言われている。地域の住民とともに生活し、その人達が持つている言葉にならない思いを聞き取り、それを言葉にして返していきながら、自分達で新しい社会をつくっていくるように議論が出来るような人々が

新しく専門職と呼ばれるようになっていくと考えられている。

これからはこうした人達を養成したり、身分を保証したりしていくことで、行政はお金を使って行政サービスを提供することだけでなく、住民が自分達で学び、自分達の生活をつくりあげていくことを支援できる仕組みをつくっていくことができるとはならないか。この「行政の『学び』化」をいかに実現していくかが今、問われているのではないだろうか。



この1日目の講義を踏まえ、2日目の講義『社会をつくる基盤としての市民―地方創生と公民館2―』では先生のこれまでの実践の中からいくつかの例をお話いただいた。

(1) 岐阜くるるセミナー

2001年、大学と銀行が連携して高齢者の社会参加を促すために始まったセミナー事業。「くるる」とは活動的なシニア世代をイメージして「聞く」、「見る」、「する」の語尾をとって付けられた名称で、くるると循環するイメージもあわせ持つ。企業を退職した男性へのアンケート結果を受けて趣味や健康などのセミナーを開

講。初めは無料で受講できる基礎セミナーで新しい生活や楽しみ方を学んでもらい、発展セミナーからは有料で参加者が

自分達で運営していく。セミナーを通して人間関係が出来ていくにつれ、参加者達は楽しみながら活動を徐々に展開させている。銀行としても社会的な価値の高い活動をしているとの認知が広がっており、収益の向上につながった。

(2) 千葉県柏市の「くるるセミナー」

高齢化が進んでいる団地で地域の人々のネットワークを作り直したいとの希望を受けて始まったセミナー。後に活動範囲を中学校区まで広げて多世代交流型の活動「タマゴプロジェクト」へと展開。コミュニティカフェをオープンし、住民の交流が深まる中、「子育てに優しい地域」だと評判が立ち、若い世代が移り住むようになってきた。

(3) 過疎・高齢中山間村支援事業

愛知県豊田市の過疎が進む山間地域において、都市部から若者を呼びこもうと始まった事業。「農村でロハスな生活スタイルを作りませんか」との公募で集まった10人の若者達は、農業を通じて地元のおじいちゃん・おばあちゃん達と信頼関係

を築き、今では全員ここで就職している。結婚して子どもが生まれるメンバーがいたり、子どもがいる世帯が引越してきたりして、元々は人口約30人の集落だったのが現在60人ぐらいにまで増え、4割を超えていた高齢化率が2割台まで落ちてい

る。小学校は廃校になってしまったが地域全体が学校になればと教育特区の申請を始めたり、地域全体をグループホームにしようという動き、またエネルギー自立圏をつくるとうという動きもあって、今やこの農村地帯は新しい社会づくりの最先端の地域と言えるかもしれない。

このほかにも子どもたちを社会のメンバーにするための取り組みなど、いずれも住民が学びを通してつながりを取り戻し、地域社会を活性化していった事例であった。「田よりも縁」、お金よりも人とのつながりが大事なのだ。つながりが豊かになれば生活の質が保証され、安心・安全なコミュニティで幸福度の高い暮らしが実現できる。

こうした社会づくりを目指す上で基盤となるのが地域社会である。公民館はその中心となって大きな役割を果たすことが今後求められていると言えるのだ。



▲ 鯖江市JK課 高橋氏



▶ ふくいの担い手プロジェクト (公社 福井青年会議所) 後藤氏

53 回東海北陸公民館大会 岐阜県高山市で開催される



▲ アトラクション 飛騨春慶弦楽四重奏

10月20日～21日、「より深めよう 地域の絆」をテーマに、第38回全国公民館研究集会・第53回東海北陸公民館大会・第8回岐阜県社会教育推進大会が岐阜県高山市の飛騨・世界生活文化センターで開催された。東海北陸各県をはじめ北海道や兵庫・大分・沖縄県からの参加者もあり1,071名が集った。福井県からは79名が参加した。大会はアトラクションの飛騨春慶弦楽四重奏による優美な音楽で始まり、表彰式では東海北陸公民館大会表彰、全国公民館連合会優良職員表彰、永年勤続職員表彰として福井県からは5名が表彰された。

文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長の西井知紀氏による施策説明の後、動物写真家の小原玲氏



▲▶ 動物写真家小原氏の講演

による記念講演「流水の伝言～アザラシの赤ちゃんと地球温暖化～」があった。動物の赤ちゃん達のスライド写真が映し出されると、そのかわいらしい姿に会場の参加者も笑顔になった。同時に、近年急速に進んでいる地球温暖化によってアザラシが出産できるような大きな流水が減ってきている現実が伝えられ、私達にできることは何かを考えるきっかけとなる内容であった。

2日目の分科会では第4分科会において、あわら市湯のまち公民館館長の北嶋義明氏が「公民館とジュニアリーダー」と題して発表された。中高生のメンバーから成るジュニアリーダー側の会場を一本化して腰をすえた活動がしたいという思いと、若い人達をもっと集めたいという公民館側の思いがつながりタイアップが実現した事例の発表に、参加者は熱心に耳を傾けていた。その後、鯖江市吉川公民館館長の坂上喜一氏の司会により、青少年の社会参画を促す活動のあり方を考える研究討議が進められた。



◀ 第4分科会司会者の坂上氏

▼ 北嶋氏による発表



第66回福井県公民館大会 坂井市で開催

10月5日(水)、坂井市高椋コミュニティセンターで福井県公民館大会が開催されました。多数ご参加いただきありがとうございました。また坂井市の皆様には、多大なご協力をいただきありがとうございました。詳しくは次号にてお伝えします。

「こうれんふくい」第80号

《発行》 福井県公民館連合会
〒918-8135 福井市下六条町14-1
福井県生活学習館2階
TEL/FAX (0776) 41-4077
E-mail f-kouren@kore.mitene.or.jp

《編集》 広報紙委員会
福井市啓蒙公民館
あわら市中央公民館
越前市白山公民館
福井県公民館連合会事務局

南部まゆみ
佐川隆紀
直江利恵子